

平成 22 年 11 月 1 日

各 位

会 社 名 日本マニファクチャリングサービス株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 小野 文明
 コード番号 2162
 問 合 せ 先 取締役執行役員コーポレート本部長 末廣 紀彦
 電 話 番 号 03 (5333) 1711 (代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年8月2日に公表した平成23年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想及び平成22年7月26日に公表した平成23年3月期第2四半期累計期間の個別業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想数値の修正（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）
 （単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想（A）	9,500	170	160	780	39,182円20銭
今回修正予想（B）	9,000	270	260	780	39,182円20銭
増減額（B－A）	△500	100	100	—	—
増減率（%）	△5.3%	58.8%	62.5%	—	—
（ご参考）前期第2四半期実績 （平成22年3月期第2四半期）	—	—	—	—	—

（注）当社は平成23年3月期第2四半期より連結決算を行っております。

平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想数値の修正（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想（A）	6,200	160	150	80	4,018円69銭
今回修正予想（B）	6,250	220	210	120	6,028円03銭
増減額（B－A）	50	60	60	40	2,009円34銭
増減率（%）	0.8%	37.5%	40.0%	50.0%	—
（ご参考）前期第2四半期実績 （平成22年3月期第2四半期）	5,284	57	57	17	851円92銭

（注）上記予想は、現時点において入手し得る情報を基に作成されたものであり、実際の業績は、様々な要因によって異なる結果に至る可能性があることを予めご承知おきください。

修正の理由

【連結】

当第2四半期累計期間における当社グループは、志摩電子工業及びその子会社である香港法人、マレーシア法人、香港法人の製造委託先である中国委託工場を平成22年7月1日に傘下に収め、当社事業との事業シナジーを追求してまいりました。加えて、当該期間においては、後述の個別財務諸表の業績修正理由にあるとおり、当社IS事業、MS事業が堅調な業績にて推移したことから、当社グループの営業利益、経常利益は、対外公表数値を大きく上回る見通しとなりました。

しかしながら、売上高に関しましては、当初は志摩電子工業の子会社であるマレーシア法人（12月決算）の第2四半期会計期間（4月から6月迄）の業績を見込んでおりましたが、7月1日の買収日を前提とした連結決算の処理方法において一部変更が生じたため、その業績を見込まないこととなりました。そのため若干ではありますが、対外公表値を下回る見通しであります。

また、四半期純利益においては、志摩電子工業をグループに取り込んだ際の時価純資産額が子会社株式を上回る負ののれんが発生いたしました。時価評価を保守の見地から厳格且つ前倒しにて実施したことから、当初予想した負ののれん償却費（特別利益）は、目論見を下回る見通しであります。しかしながら、上述のとおり本業での利益が大幅に公表数値を上回り、対外公表数値どおりの見通しであります。

一方、第3四半期以降の業績につきましては、足下の受注状況を冷静に分析した場合、引き続き堅調な業績が予想される状況ではありますが、メーカーを取り巻く経営環境が依然として不透明であることを勘案し、現時点での業績上方修正は見送るものいたします。

以上のような状況を鑑み、平成22年8月2日に発表いたしました「連結決算の開始に伴う連結業績予想の開示について」に記載の平成23年3月期第2四半期累計期間（連結）業績予想を上記のとおり修正いたします。

【個別】

当第2四半期累計期間における当社の業績は、新たに定義した「neo EMS」という事業戦略コンセプトに基づき、IS事業、MS事業、GE事業の新規案件の発掘を精力的に進めて参りました。IS事業では、前期から進めてきた受注前段階からの徹底した原価コントロールが定着し、原価低減が一層進みました。また、MS事業においても工程診断を経て徹底的に工程を見直したことから、修理効率及び原価率が著しく改善する等、採算性の改善に大きく寄与いたしました。この結果、営業利益、経常利益、四半期純利益の各利益項目において対外公表数値を大きく上回る見通しであります。

一方、第3四半期以降の業績につきましては、連結業績と同様なスタンスに立ち、現時点での業績上方修正は見送るものいたします。

以上のような状況を鑑み、平成22年7月26日に発表いたしました「平成23年3月期第2四半期累計期間（非連結）及び通期（非連結）業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の平成23年3月期第2四半期累計期間（非連結）業績予想を上記のとおり修正いたします。

以 上